

山地に生息するサシバの餌特性は本当に山地であることが要因なのか

申請者：今森達也、野中純

1 調査目的と意義

サシバは本州以南で繁殖し、南西諸島からフィリピンまでの地域で越冬する中型の猛禽類である。本種は主に平地や丘陵地周辺のいわゆる里山環境に生息していることが知られているが、山間部や水田がない山地の溪谷での生息数も決して少なくはないことが分かってきた(今森ほか 2011,2012)。

サシバの生息地の保全を考える上では山地での生態を明らかにする必要があるため、2013年、筆者らは皆様からの支援を受け、石川県内の山地で繁殖した2つがいのサシバの巣で餌動物の内容を調査した。その結果、巣に搬入された餌動物の割合は爬虫類とカエル類が3割強、多足類が2割弱、小型哺乳類が約1割、昆虫類は1割未満であった(今森ほか 2013)。カエル類の割合も比較的高いが、里山環境での研究結果とは異なり、育雛前期よりも中期から後期に割合が高くなっていた。特にアオガエル類の増加が顕著で、産卵期のモリアオガエルをよく捕らえているものと思われた。そのほか、爬虫類の割合が高いことや、育雛期間を通して昆虫の割合が低いことが山地での餌特性ではないかと考えられた。

これを確認するためには、同じ石川県内の里山環境に生息するサシバの餌解析を行い、石川県内の山地で見られた特性が「山地」の特性なのか、石川県という地域の特性なのかを調べる必要がある。2013年は、里山環境のサシバの餌を解析できなかった(繁殖しなかった)ため、2014年には石川県の里山環境(海拔10~100m前後)におけるサシバの餌特性を調査し、上述の特性が山地であることが要因なのかを明らかにするとともに、同じ里山環境でも関東地方周辺と石川県では違いがあるのかについても確認したい。これらの結果は、サシバの生息地の保全を検討する際に、地域や地勢による違いをどのように考慮すべきかの参考になるものと思われる。

2 調査地

標高が海拔 10～100m 前後の石川県加賀市の里山環境(谷津環境)で調査を実施する。



3 調査内容

1) 調査方法

調査対象ペアの営巣木に小型カメラを設置して巣内の状況を録画し、育雛期の巣に搬入される餌動物について解析を行う。

2) 調査時期

サシバの渡来後、目視観察と踏査により繁殖巣を特定し、雛の日齢が 10 日程度に達したところで小型カメラを設置、以降巣立ち時期まで録画を行う。抱卵期及び孵化直後は繁殖活動中断の危険性が高いため、カメラの設置は行わない。

3) 必要機材など

- ・録画機材(ブルーレイレコーダー)
- ・録画機材格納設備(小型の収納庫)
- ・小型カメラ
- ・電源ケーブル及び映像送信ケーブル
- ・電源設備

調査地では電源設備の準備が必要である。また、繁殖巣の特定、繁殖状況確認(産卵や孵化、雛の日齢確認)、機材設置及び定期点検、回収作業のため、現地を往復する車両の燃料代も必要である。これらの費用を捻出するため、是非とも御支援をお願いいたします。